

# 土地利用型作物部 ～研究領域：育種、栽培、農業機械～

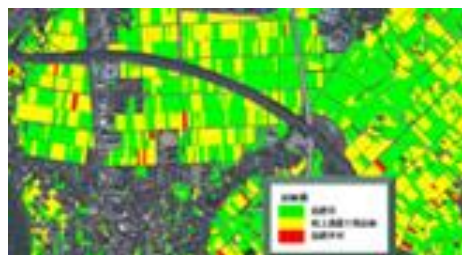
## ◆ 主な研究課題・事業 ◆

### 課題1 スマート農業の普及を加速化する衛星情報を活用した県オリジナル品種の生育診断技術の開発

県産米の食味・品質を安定化するため、衛星リモートセンシング技術を用いた「つや姫」「雪若丸」「はえぬき」の生育診断技術の構築に取り組んでいます。

その生育診断結果をICTを活用して生産者に提供することで、穂肥診断等の生産にかかる労力の軽減も図られます。

さらに、省力かつ精密な水稻の生育診断技術が構築されることで、県産米全体の食味・品質が高位平準化し、県産米の評価向上が期待されます。



衛星画像による生育診断

### 課題2 「雪若丸」のブランド確立に向けた高品質・良食味米の低コスト安定生産技術の開発

「つや姫」に続くブランド米として期待の大きい「雪若丸」について、省力・低コスト化しつつ高品質・良食味米を安定生産するための技術の開発に取り組んでいます。

特に、省力・低コスト栽培技術である鉄コーティング直播き栽培と高密度播種苗移植栽培技術を確立することで、雪若丸のブランド確立が期待されます。



雪若丸

### 課題3 高密度播種苗栽培を用いた省力・低コスト技術の確立

大規模稲作経営等において、適期作業を可能にするために省力・低コスト技術が求められ、高密度播種苗栽培が導入され始めています。

育苗方法や本田での生育を検討し、高密度播種苗栽培での本県の主力品種の特性の解明と、高品質・良食味米を生産するための省力・低コスト生産技術の確立に取り組んでいます。



高密度播種苗

## 課題4 大豆大規模栽培における効率的作業技術体系の確立

近年、大豆の本作化が進む中で大豆生産組織ごとの栽培面積が拡大しています。これにより、播種を始めとした各種作業の長期化や作業の遅れが生じ、結果として大豆の生育不良や収量・品質の低下を招くことが大きな課題となっています。

そこで、新たに開発された高速かつ高精度播種が可能な播種機を導入した栽培体系の確立を図るとともに、播種期間の長期化に対応するために狭畦無培土栽培による晩播技術体系の確立を目指しています。



高速・高精度播種が可能な大豆播種機

## 課題5 大豆圃場における難防除雑草アレチウリの防除技術の確立

県内の大豆栽培圃場でも発生が確認されている難防除雑草アレチウリは、発生が拡大・蔓延してからでは防除対応が非常に困難な雑草です。このため、県内における大豆圃場での発生状況を侵入初期の段階で的確に把握してマップ化するとともに、大豆圃場に侵入したアレチウリに対するより効率的な防除体系の確立に取り組んでいます。



大豆圃場に発生するアレチウリ

## 課題6 そば優良品種の開発（第4期）

本県では、在来種から純系選抜した「最上早生」と、平成8年育成の「でわかおり」が主力品種として作付けされており、平成26年には多収でそば粉の緑色が強い良食味品種「山形BW5号」を育成しています。

現在は早生で多収の有望系統「山形そば6号」を育成中です。今後も、夏そば、早生、良食味・多収を目標として優良品種の開発に取り組んでいきます。

<育種目標>

夏そば、早生、耐倒伏性、粉色・香りに優れた良食味、多収



育成中の有望系統「山形そば6号」